

中学校・道徳の内容項目の解説

役割と責任の自覚

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	役割と責任の自覚

●解説

全体的な理解	人間は、一人では生きていけない。様々な集団や社会の一員として生活を営んでいる。それぞれ目標や立場を異にする集団に属しながら、共同で日々の生活を営んでいる。人が、集団の一員としてよりよく生きていくためには、自分の属する集団の意義を十分に理解することが大切である。各人がその成員としての役割と責任を自覚して、個々が責任を果たし集団の目標を達成する中で集団生活の向上が図られ、自己の実現もなされる。また、集団は成員相互の協力があって維持されるものであるから、互いに人間関係を大切にするとともに、励まし合うという協力関係をつくりあげていくことが大切である。
発達的な観点	中学生の時期は、学級、学校、地域社会などの様々な集団の中で互いに深くかかわり合って相互理解を深め、それぞれの集団の中で人間的な成長を遂げるのによい時期であるが、一方で、集団の一員としての所属感や一体感を強く求め、自己の思いのみを先行させてしまうこともある。集団生活の向上には、集団の規律を守ることが必要であり、そのためには生徒一人一人が自らの役割と責任を果たすという自覚が大切である。集団の中では、成員同士が互いに規律を守り、協力し合って、集団生活の向上に努めることが求められている。
指導の着眼点	指導に当たっては、自分が所属する集団にのみ目が向き過ぎると、自分たちの利益のみを追求し、自分とかがわりが薄いと思われる集団や成員に無関心であるばかりか、排他的になりかねない。このような利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合って集団生活の向上に努める態度を育てることに留意する必要がある。更に、生徒一人一人が集団の中で個性を失うことがないように留意して、それぞれが伸び伸びと自らのよさを発揮できるような集団の在り方を考えられるようにする必要がある。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
低学年	-----
中学年	-----
高学年	(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。
	役割と責任の自覚